



国際交流員カロリンのコラム

Schön, Sie alle kennenzulernen.

(シューン、ズィーアッレ ケンネンズレルネン) みなさま、はじめまして！



私は、カロリン・ヴァイドマン (Carolin Weidmann) と申します。27歳で、ドイツの西南にあるザールブリュッケンというザールラント州の州都から来ました。2010年から4年間、ハイデルベルク大学で東アジア学や日本学を勉強し、2014年からは東アジアの政治と社会を研究テーマに据えてチュービンゲン大学に進学しました。この度、下野市で国際交流員として働かせていただけることになり、とても嬉しく思っています。

「カロリン、どうして日本学を勉強しているの？どうして日本に行きたいの？」今まで、私は何度も同じ質問を受けてきました。今回、この国際交流員に申し込むのをきっかけに、私は改めてこの質

問についてよく考えてみました。

私は、どうして日本学を大学で専攻したいと思ったのでしょうか。自分でも、不思議に思うことがありました。

私は、ザールブリュッケンに合併した小さな村に生まれました。私の住む世界は、とても安全で秩序が守られていましたが、狭く、ときどき少し息苦しく感じることもあったように思います。「全然知らない世界に触れてみたい」と思い、ドイツと欧米文化から一番遠いアジア文化についての色々な勉強を始めました。

ある日、ドイツでも人気がある「千と千尋の神隠し」の映画を見ているときに、なんとなくドイツ語の吹き替えではなくオリジナルの日本語に切り替えました。そこで私は初めて日本語を聞いて、本当に感動しました。柔らかくて、旋律の美しい、とても丁寧な言語という印象を受けました。

「あつ、もっと日本語や、日本の文化について勉強したい！」と思った瞬間でした。そして、ハイ



ドイツで人気の die maus

デルベルク大学での勉強が始まりました。

日本学を通して、今まで様々な日本人と出会って、とても大切な思い出もできました。

日本学を勉強すれば勉強するほど、日本がとても興味深い国であることや、日独関係の深さを理解することができました。毎日「私に一番向いている、本当にやりたいことをできている」と実感することができ、とても幸せです。

私の大きな目標のひとつは、ドイツ人にもっと日本とドイツの素晴らしい関係を伝えていくことです。

そのためにも、私自身が日本と

いう国、日本の文化、日本人について、これから実践を通してたくさん学んでいきたいと思っています。

「カロリン、どうして日本学を勉強しているの？どうして日本に行きたいの？」という質問に対して、自分の中で答えが出ました。

それは、日本が私の世界を広げてくれたこと、日本人とドイツ人がもっと近い存在でいられるよう貢献したいからだと分かりました。

その大きな一歩を踏み出すチャンス私に与えてくれた下野市にとても感謝しています。

国際交流員として、下野市の皆さまと一緒に、ますます日本についても、自分の国についても学んでいきたいです。どうぞよろしくお願いします！



■人口と世帯 (8月1日現在)
人口/60,120人(+28)、男性/29,847人(+26)、女性/30,273人(+2)、世帯数/23,892世帯(+20)

PC・スマホ市ホームページ



広報しもつけを設置協力いただけるコンビニエンスストアなどのお店を募集しています。ご協力いただける場合は総合政策課 ☎0285(32)8886 情報広報グループまでご連絡ください。

TAKE FREE

